

ライフライン持続へ理解を

大成機工 関学大で寄附講座開く

大成機工はこのほど、木本圭一・関西学院大学国際学部教授の講座「関西の文化・政治・経済」に寄附講座が組まれたことを受け、同社顧問でWater & Life 誌編集長の堂馬隆之氏が「大

阪発祥企業の存在意義とライフライン企業の社会的責任」と題し、オンライン講義を行った。

講義は①日本経済を支えた企業を生んできた大阪②ライフライン企業の使命③質疑応答の3部

構成で進行した。

①では、大阪が古くから商業の中心地として、商才に長け、進取の気性に富んだ人物を多数輩出してきた背景や、金融や電機、繊維などの業種で名だたる有名企業が設立された歴史について解説。大阪発祥ながら東京に本社を移す企業が増加し、低迷する現状を打開する力ぎは「優れたものづくりのノウハウや人脈を活かし、いかに人を呼び込めるかの発信力」と強調した。

②については「不断水工法」「耐震補強金具」

など、高い技術と製品開発力で発展を遂げた大成機工の沿革や、創業者・矢野信吉氏がメセナの発想でWater & Life 誌を創刊した経緯を説明するとともに、同氏の先見の明ぶりを紹介。

また、給水人口とともに給水収益が減少するなか、老朽化対策や耐震化、自然災害への対応などが求められる現状を説明し「水道インフラの持続可能性を確保するため、事業者や企業に対する一般住民の理解が必須」と訴えた。

質疑応答に移り、学生からは「ライフライン企業や事業体に勤務する人たちの共通点」などと質問が寄せられた。堂馬顧問は「水道界は、水道一家」と呼ばれるように、災害が起これば全国から被災地に駆けつける美風がある。共通点は、生命線を維持しなくてはならない責任感の強さでしょう」と回答し締め括った。

木本教授のコメント
「メーカーとしての発展とともに、ライフラインビジネスに携わる企業としての社会的使命についてレクチャー頂いた。堂馬顧問に多くの質問が寄せられ、受講生にとって新鮮で非常に有益な時間となった」



オンライン講義で熱弁を振るう堂馬顧問